

Web 上での言語地図共有フレームワークの構築

—ネットでカンタン言語地図 HOUGEN.jp—

1. 背景

言語地図とは、地方ごとの単語・発音・文法などの方言の違いを分布地図として表したものを言う。言語地図は方言や言語を調査する研究者なら誰でも作成する機会があるので、そのためのソフトウェアは文科系の専門的なツールとしては比較的需要が大きいものと考えられる。それにもかかわらず、広く普及した使いやすい言語地図作成プログラムは存在せず、いまだに手書きで言語地図を作成している研究者も多い。

また、近年方言は諸方面で注目されており、使いやすいツールが提供されれば研究者以外の方も言語地図の作成に参加することが期待される。

2. 目的

言語学の研究者や、一般の方に使いやすい言語地図作成ソフトウェアを提供すること。また、ネットの特性を生かして、研究の成果を公開しやすくしたり、共同作業の基盤を提供することで、方言研究の発展を促進するようなソフトウェアを作ること。

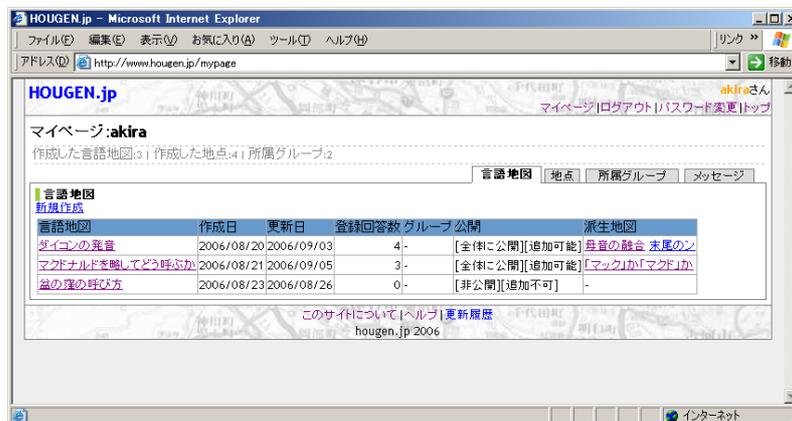
3. 開発の内容

開発したソフトウェアは <http://www.hougen.jp/> で公開しており、誰でも使用できる状態になっている。

ユーザーごとのトップページ

HOUGEN.jp はメールアドレスを登録することで使用できるようになっており、ログインすると次のような画面になる。

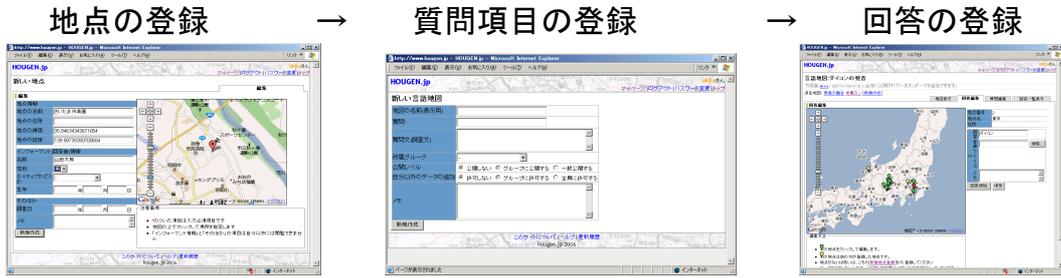
この画面では、自分の作成した言語地図、地点、所属しているグループ、他のユーザーから送信されたメッセージを見ることができる。



<図1 ログイン画面>

言語地図の新規作成方法

HOUGEN.jp での言語地図の作成は次のような手順になる。



<図2 言語地図の作成手順>

言語地図の公開

質問項目を作成したユーザーは、言語地図の公開レベルを設定することができる。

<表1 公開レベル>

公開レベル	公開しない	グループに公開する	一般公開する
地図を見られる人	自分だけが見られる	グループに属する人だけが見られる	誰でも見られる

言語地図へのデータ追加権限

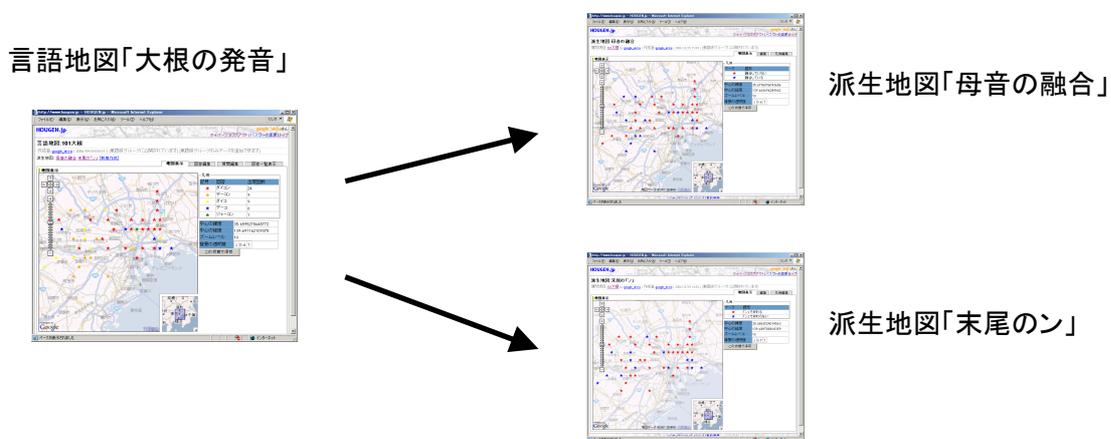
質問項目を作成したユーザーは、言語地図にデータを追加できる権限を設定することができる。この設定によって、共同で言語地図を作ることが可能になっている。

<表2 データ追加のレベル>

自分以外のデータの追加	許可しない	グループに許可する	全員に許可する
データを追加できる人	自分だけが追加できる	グループに属する人だけが追加できる	誰でもデータを追加できる

派生地図の作成

言語地図から、特定の観点から地図をまとめなおした「派生地図」を作り出すことができる。



<図3 派生地図の作成例>

4. 従来の技術(または機能)との相違

今までの言語地図作製アプリケーションと比較した場合、以下のような特徴を持つ。

- (1) Web アプリケーションであり簡単に言語地図が作れること
→インストールが不要
- (2) 言語地図を公開するのが容易なこと
→グループのメンバーだけに公開することもできる
- (3) 共同作業による言語地図の作成が可能なこと
→これにより、今までになかった大規模な地図が短時間に作成できる
- (4) 言語地図と派生地図の区別を持つこと
→ひとつの言語地図データについてさまざまな解釈を示すことができる
→最初は生に近い詳細なデータを入力しておき、あとで集約できる

5. 期待される効果

このアプリケーションにより、言語地図の作成が容易になり研究者の負担が軽減されると思われる。また、公開される言語地図が増えて一般の人々の関心をひくことができ、言語地図の作成に参加する人が増えればより大規模で詳細な言語地図の作成が可能になるだろう。

派生地図の機能によって、紙の言語地図では容易に行えなかった分析が可能になり、この分野の学問の発展に寄与することが期待される。

6. 普及(または活用)の見通し

HOUGEN.jp のアピールを各種学会などで行うとともに、地域教育、とくに調べ学習などのツールとしての使い道をさぐりつつ、普及を図っていきたい。

各地の方言学、言語学の研究者に、言語地図を作成するツールとして使ってもらえるのは予想できるが、言語地図を公開するために HOUGEN.jp を使ってもらえるかは未知数といえる。作成した言語地図を公開してもらうことができれば、それを見た人が新しい言語地図を作りさらに方言に興味を持つユーザーが増えるという好循環を生み出すと考えられるので、言語地図の公開の機運を作り出すことが普及の鍵になると考えている。

7. 開発者名(所属)

竹林 暁(フリー)